第1号議案　２０２４年度事業報告承認の件

１．一般報告

［1］会員移動報告

表－１　会員移動状況　　（2025 年 2 月 18 日現在）

会員種別		2023 年度（第 3 回理事会）会員数	2024 年度（第 3 回理事会）			
			入会者数 復活者数	退会者数 停止者数	転格増減数	会員数
個人会員	個人正会員	4,095	315	−203	−1	4,206
	特別会員	59	3	−3	1	60
（小計）		4,154	318	−206	0	4,266
賛助会員		163	12	−10	0	165
会員合計		**4,317**	**330**	**−216**	**0**	**4,431**
学生会員		1,979	1,320	−1,187	0	2,112
購読会員		45	0	−4	0	41

表－２　本支部別正会員、賛助会員数内訳　　（2025 年 2 月 18 日現在）

会員種別		北海道	東北	関東	東海 北陸	関西	中国 四国	九州	本部	会員種別 合計
個人会員	個人正会員	173	264	1,825	424	649	293	578	0	4,206
	特別会員	3	1	32	4	5	8	7	0	60
（小計）		176	265	1,857	428	654	301	585	0	4,266
賛助会員		11	9	79	14	26	17	9	0	165
本支部別会員合計		**187**	**274**	**1,936**	**442**	**680**	**318**	**594**	**0**	**4,431**
学生会員		53	224	842	189	228	425	151	0	2,112
購読会員		0	4	25	4	6	1	1	0	41

［2］2024 年度定時総会

日　時：2024 年 5 月 28 日（火）午後 3 時～5 時

場　所：グランパーク・カンファレンス 301

出席者：2,293 名（議決権をもつ正会員 4,095 名に対し本人出席 92 名、委任状による出席 2,201 名）

議　長：枝広英俊

議　案：第１号議案　2023 年度事業報告承認の件

第２号議案　2023 年度収支決算報告書承認の件

以上の議案は、原案通り承認された。

報　告：１．2024 年度事業計画に関する件、２．2024 年度収支予算に関する件

３．会長表彰、創立 50 周年記念大会ロゴマーク結果発表および表彰

［３］役員及び委員会委員長（敬称略）

会 長 ・代表理事　浦江真人

副会長・代表理事　生島宣幸

副会長・理　事　松岡宏幸

副会長・理　事　森谷靖彦

専 務 理 事　前田伸子

理　事　橋本真一、宮川　剛、嶧田晃一、杉田　洋、柳　泰彦

志手一哉、横澤正人、小山明男、志岐祐二

理 事 ・ 支 部 長　北 海 道／東　伊佐緒

東　北／高橋敏朗

関　東／皆銭宏一

東海北陸／硎谷将紀

関　西／渡邉浩文

中国四国／林　康文

九　州／小山田英弘

監　事　涌井英雄　林　美貴

常置委員会委員長　事業計画委員会／森谷靖彦(代理)

会員委員会／橋本真一　広報委員会／宮川　剛

人材育成委員会／嶧田晃一　教育委員会／杉田　洋

ＰＣＭ委員会／柳　泰彦　情報委員会／志手一哉

国際委員会／横澤正人　環境委員会／小山明男

評価評定委員会／志岐祐二　積女 ASSAL 委員会／前田伸子

評議委員会等

（１）建築コスト管理士

建築コスト管理士評議委員会委員長／田村誠邦（(株) アークブレイン代表取締役）

（２）建築積算士

建築積算士評議委員会委員長／枝広英俊（芝浦工業大学名誉教授）

（３）建築積算士補

建築積算士補評議委員会委員長／三原　斉（ものつくり大学 技能工芸学部建設学科教授）

（４）特別委員会

ペリカン推進委員会委員長／松岡宏幸（副会長）

創立 50 周年記念大会実行委員会／松岡宏幸（副会長）

［４］理事会開催概要

今年度は理事会を書面で 3 回、会場で 3 回実施して審議を行なった。
主な審議事項は以下の通りである。

理事会（書面）2024 年 4 月 8 日(月)
（１）2024 年 4 月 1 日付け会員数の承認の件

理事会（書面）2024 年 5 月 9 日(金)
（１）2023 年度事業報告書の承認の件
（２）2023 年度決算報告書の承認の件

理事会（第 1 回）
2024 年 5 月 28 日(火)　会場：グランパーク・カンファレンス 302・303
（１）会員入退会承認の件
（２）2024 年度定時総会（案）の件
　　2024 年度定時総会定足数
（３）理事会等開催日程（案）の件
（４）建築積算士規則変更（案）の件
（５）特定費用準備資金（創立 50 周年記念大会事業準備積立金）
代表理事、業務執行理事活動報告

理事会（第 2 回）
2024 年 10 月 1 日（火）会場：当協会 2 階会議室
（１）会員入退会承認の件
（２）永年会員の資料間違いの件
（３）木造建築小委員会設立(案)の件
代表理事、業務執行理事活動報告

理事会（書面）2024 年 10 月 28 日(月)
（１）役員候補者選任規程(2025 年度～2026 年度役員候補者の選任）承認の件

理事会（第 3 回）
2025 年 2 月 18 日(火)　会場：当協会 2 階会議室
（１）会員入退会承認の件
（２）２０２４年度事業報告（案）の件

（３）２０２４年度決算見込みの件
（４）２０２５年度事業計画（案）の件
（５）２０２５年度予算（案）の件
（６）２０２４年度チャレンジ事業報告の件
（７）２０２５年度チャレンジ事業新規申請の件
（８）会長表彰（案）の件
（９）役員賠償責任保険継続契約（案）の件
代表理事、業務執行理事活動報告

［５］正副会長会議開催概要

2024 年度は、毎月１回開催した。
理事会の議案や常置委員会への諮問・検討結果について、また各事業の執行状況等について意見の交換と調整を行い、会務の円滑な運営や事業執行の進展等を図った。

［６］建築コスト・建築積算教育の実施

建築コスト・建築積算教育事業として次の通り実施した。

（１） e ラーニングセミナー　　（単位：名）

部署名	名称	期　間	開催	受講者
本部	新☆建築コスト管理士ガイドブックによるコストマネジメント e ラーニングセミナー	8 月 7 日～ 10 月 26 日	全国	112
	『新☆建築積算士ガイドブック』講習会	(Web)5 月 25 日・6 月 1 日 (e ラーニング) 8 月 19 日～10 月 26 日	全国	166 103
	建築積算士補向け積算実技講座	2024 年 4 月 1 日～ 2025 年 3 月 31 日	全国	112
東北	はじめての数量算出【躯体と仕上】e ラーニングセミナー	9 月 17 日～ 11 月 26 日	全国	42
計				535

（２）入門教室・積算学校

（単位：名）

部署名	名称	開催日	開催方法	受講者
本部	2024 年度 建築積算学校	8 月 1 日～ 11 月 12 日 全 28 回	Web	109
東北	『建築積算入門 Web セミナー』	5 月 18 日・25 日	Web	80
	建築積算実技講習会（2 日間）	11 月 30 日・12 月 1 日	Web	13
東海北陸	建築積算入門講座	5 月 25 日	Web	129
計				331

（３）講習会

（単位：名）

部署名	名称	開催日	開催方法	受講者
本部	『建築積算技術者のためのLCA入門連続講座』第１回	7月11日	Web	113
	『建築積算技術者のためのLCA入門連続講座』第２回	8月21日	Web	118
	『建築積算技術者のためのLCA入門連続講座』第３回	10月11日	Web	44
	『建築積算技術者のためのLCA入門連続講座』第４回	12月3日	Web	52
	【積女ASSAL】主催の勉強会「第三次・担い手３法（令和６年度改正）の全体像と今後の動向について」	11月13日	Web	37
	【積女ASSAL】①仕上積算の基礎知識と数量の拾い方について②「関東財務局での建築積算」ってなに？	12月7日	Web	28
北海道	建築積算基礎講座（5日間）	11月19日・21日・26日・28日・12月3日	Web	27
東北	建築数量積算基準・同解説の説明、実技セミナー(構造編)	2024年7月17日	会場(秋田テルサ)	8
	建築数量積算基準・同解説の説明、実技セミナー(仕上編)	9月18日	会場(秋田テルサ)	10
	鉄骨積算入門Webセミナー	11月9日	Web	43
	鉄骨数量積算セミナー	2025年2月19日	会場(秋田テルサ)	6
関東	第12回ポケットセミナー『耐火被覆の最新知識と不具合事例』	2024年5月22日	Web・会場併用	84
	新潟地区『建築躯体積算実技講習会』	6月19日	Web・会場併用	26
	第13回ポケットセミナー『電気設備工事の積算について』	6月26日	Web・会場併用	81
	第6回ポケットセミナー『F Mの視点から2話ー「ブリーフィング（要求条件作成）とLCC（ライフサイクルコスト）」』(録画配信)	7月31日	Web	34
	第7回ポケットセミナー『CM(コンストラクションマネジメント)におけるコストマネージメント』(録画配信)	8月28日	Web	20

部署名	名称	開催日	開催方法	受講者
関東	第 14 回ポケットセミナー 『機械設備工事の基本設計段階の概算算出方法及び実施設計段階の官庁積算手法について』	12 月 4 日	Web・会場併用	35
	鉄骨工事ガイドブック講習会	2025 年 1 月 23 日	Web・会場併用	43
	建築改修工事の積算講習会	2025 年 2 月 21 日	Web・会場併用	90
東海 北陸	建築数量積算基準のビジュアル講習会	2024 年 6 月 13 日	Web	29
	新制定・建築数量積算基準『木躯体』講習会	2024 年 7 月 25 日	Web	81
	北陸支所建築積算士実技研修会	11 月 30 日・12 月 14 日・21 日・1 月 11 日	会場(金沢)	3
	金沢・新制定・建築数量積算基準『木躯体』講習会	2024 年 11 月 16 日	会場(金沢)	13
	建築積算の実技講習会	2024 年 12 月 21 日	Web	27
関西	建築積算基礎講座	2024 年 6 月 1 日 ～6 月 22 日　計 4 回	会場（大阪府 建築健保会館）	22
	再配信　建築プロジェクト基本計画の概算	8 月 10 日～9 月 16 日	web	159
	建築積算チェックポイント（建設会社編）	6 月 10 日～6 月 30 日	Web （サブスクリプション配信）	146
	鉄骨積算実技講習会	11 月 16 日	会場 (大阪府 建築健保会館)	22
	コミュニケーションの重要性	2025 年 3 月 11 日	Web	85
	地下解体の留意点～工事計画・見積からの視点～	3 月 25 日	Web	190
中国 四国	見積と積算にチャレンジ	2024 年 7 月 5 日	WEB	28
	自分でもできるか？概算	7 月 19 日	WEB	82
	建築数量積算基準	8 月 30～9 月 6 日	録画配信	11
	基礎から学べる積算協会の Excel セミナー 入門編	11 月 13 日	WEB	33
	基礎から学べる積算協会の Excel セミナー 初級編	11 月 13 日～11 月 27 日	録画配信	29

部署名	名称	開催日	開催方法	受講者
中国 四国	基礎から学べる積算協会の Excel セミナー 中級編	11 月 13 日～11 月 27 日	録画配信	34
	基礎から学べる積算協会の Excel セミナー 上級編	11 月 13 日～11 月 27 日	録画配信	24
	基礎から学べる積算協会の Excel セミナー 発展編	11 月 20 日	WEB	32
九州	建築積算講習会 （土工・地業、躯体(RC 造)編）	2024 年 6 月 22 日	会場(沖縄)	16
	建築積算講習会 （土工･地業、躯体(RC 造)編 ）	7 月 20 日	会場(福岡)	7
	建築積算講習会 （仕上、躯体(鉄骨造)編 ）	8 月 24 日	会場(沖縄)	15
	建築積算実技講習会	11 月 16 日	会場(鹿児島)	18
	建築積算実技講習会	11 月 30 日	会場(沖縄)	20
	建築積算実技講習会	12 月 14 日	会場(福岡)	10
	建築積算講習会 （仕上、躯体(鉄骨造)編 ）	2025 年 2 月 22 日	会場(福岡)	12
計				2,047

（４）講師派遣

部署名	派遣先
北海道	若手社員研修会（札幌）
	建設業若手社員研修会（札幌）
	建設業新入社員研修会（札幌）
関東	建築積算研修（建築積算士ガイドブック編）
	公共建築工事積算研修
	実務研修（体験実務コース）「まちづくり政策科」
東海北陸	愛知県技術者研修会　営繕行政基礎講座（建築積算）
関西	近畿大学特別講義（建築積算とは。建築積算士に求められる技術）
	修成建設専門学校　講義
中国四国	鳥取県建設技術センター（建築数量積算基準）

部署名	派遣先
九州	長崎県建設技術研究センター「長崎県 建築工事の積算演習」2 日間
	熊本県建築士事務所協会「令和 6 年度積算教室」
	熊本県建設技術センター「建築の積算演習（土工・躯体・仕上)」
	大分県建設技術センター　「令和 6 年度専門技術研修「建築積算研修」」
	宮崎県建設技術センター「宮崎県 建築工事積算研修」
	佐賀県建築士事務所協会「建築積算講習会（土工･地業、躯体(RC 造)編)」

［7］その他の事業

（1） 建築積算に関する情報サービス等

イ．会誌「建築と積算」編集・発行（発行部数：5,200 部／季刊）
ロ．ホームページによる情報提供
ハ．支部報の発行
二．メールマガジンの発行（関東支部、中国四国支部）

２．事業報告

２０２５年度創立５０周年記念大会に向けて、会員ならびに役員の皆さまから多大なる寄付金ならびにスポンサーシップの御協力・ご支援をいただき誠にありがとうございました。

昨年来進めてきました記念大会のシンボルとなるロゴマークは、７７件の応募作品があり、厳選なる審査の結果、５月２８日の総会で、最優秀作品・優秀作品が発表されました。最優秀作品は、ホームページ・記念大会案内・名刺等に掲載し、広報活動に活用しています。

協会史編纂では、創立から現在までを振り返り、歴代会長、関係者に執筆を依頼、各委員会、各支部については、現委員長、現支部長に執筆のご協力をいただきました。

また、記念式典の基調講演者、イベント等の検討を進めました。

引き続き７月１８日の記念大会に向けて、本支部一体実行委員会メンバーを中心として詳細な準備に取り組んでいます。

２０２４年度の活動は、装いも新たにした「新☆建築積算士ガイドブック」の講習会の準備から始めました。講習の開催日は、5 月、6 月の土曜日、講師は執筆者を中心にお願いして、Web 配信での講習会を計画しました。結果は、多くの方々にご参加をいただき、大変好評でした。今後は、今回のコンテンツを利用して、今回視聴出来なかった方へ視聴できるように進めていきます。

技能者の高齢化が進み、担い手不足が叫ばれる中、２０２４年４月１日から時間外労働時間の上限規制が適用され、新たに、第三次・担い手３法（令和６年度改正）が制定されました。

建設業界に携わる人々への待遇面、人材育成が、官民一体となり、少しずつ動きはじめる兆しが見

え始まる中で、当協会の最重要ミッションの建築積算士、建築コスト管理士の資格試験申込者は、昨年に引き続き、確実に増えてきました。

外国からの参加もあったＷＥＢ積算学校は、今年度で４年目となり定着してきたものの、受験生は減少しました。２０２５年度も継続いたしますので、案内開始を早めることで多くの方の参加を促していきます。

具体的活動については、以下に展開しました。

［１］人材の育成

今年度も、最重要ミッションの資格認定試験は、大きな混乱もなく実施することが出来ました。また、コロナ禍の中で蓄積したオンラインセミナーのノウハウを活用して、会場による対面方式とオンライン方式を融合させたハイブリッド形式の講習会を進めてきたことで、オンライン講習会への参加が定着してきた。

（１）学校教育

学校教育は、認定校が減少傾向にあるが、新規認定校の発掘活動に注力している。

建築積算士補認定試験は、認定校とのコミュニケーションに留意し、継続的なサポートを行ったが、少子化の影響か受講生数も減少傾向にあり、合格率や登録率は同水準で推移していて、大きな変化は見られなかった。

なお、学生会員登録者数は、認定校での建築積算士補受験申込時の促進活動により、定着してきた。

（２）社会人教育

建築コスト管理士を主な対象として、講義動画によるｅラーニング方式（新☆建築コスト管理士ガイドブック講習会）を、８月～１０月に開催した。また、建築積算士二次試験受験者を主な対象として、積算実技講習動画によるｅラーニングセミナーを、１２月に開催した。

今年度から新たに建築積算技術者のための「ＬＣＡ入門連続講座」を開催した。

（３）資格認定事業

建築コスト管理士、建築積算士の資格認定試験は、コロナ禍以前の状況で実施できた。

なお、建築コスト管理士受験申込者が昨年度の２５％程度増加した。

（４）ＣＰＤ

当協会のＣＰＤ（継続能力開発）制度は、会員および資格者を対象としている。そのなかで、建築コスト管理士は、ＣＰＤ単位取得が資格登録更新の必要条件となっている。

今年度も、オンラインセミナーの開催を中心としてＣＰＤ単位を提供した。

（５）ｅラーニング等

当協会は、建築コスト管理士および二次試験受験者を主な対象とした講義動画によるｅラーニング方式を活用している。また、建築積算士更新講習をｅラーニング方式に変更し、ＤＶＤ視聴や会場受講といったオプションも揃え、受講者の利便性を図っている。また、パソコンだけではなく、スマートフォンやタブレット端末の使用も可能にしている。

現在のＩＴ環境に適った更新方法であると受講者にも好評である。

［２］調査研究の充実と情報発信の促進

コストマネジメントは、社会経済環境の変化を背景に、領域を益々拡大させながら進化しており、調査研究課題は多い。

ＰＣＭシリーズⅡの「新☆建築積算士ガイドブック」は、２０２３年度に内容を見直し、新たにＢＩＭ、木造、解体、改修等の項目を追加し発刊され、執筆者を講師として５月と６月に講習会をＷｅｂ配信方式で開催した。大変好評だった。

また、２０２２年８月に発刊したＰＣＭシリーズＸ「中大規模木造建築のコストマネジメント・ガイドブック」の改訂については、「木造小委員会」を新たに設立し、その中で、令和６年度以降の計画について、検討を始めた。

ＰＡＱＳ（アジア太平洋ＱＳ会議）は、８月にブルネイで開催され、今年は、積女枠が新たに設けられ女性の参加が増えた。支部からの参加者が減り、９名となったが、今回も当協会から２名の委員の論文発表がされた。テーマは「DIGITALISATION TOWARDAS A SMART NATION （スマート国家に向けたデジタル化)」、詳細は「会誌２０２４年秋号の積女ＡＳＳＡＬだより」と「会誌２０２５年新春号」に報告が掲載されているが、改めて報告会を開催する予定である。

昨年度より継続して、国土交通省主催の「建築ＢＩＭ推進会議」に参画し、同会議の「部会４」として活動するＢＳＩＪ協議会において、分類体系の整備とコストマネジメント手法の確立をテーマに、関連機関・団体との更なる連携強化を図った。

情報委員会では、英国の建設情報分類体系「Uniclass」をコストマネジメントに活用するための検討と、ＢＩＭおよび建設情報分類体系を利用した概算手法の活用に関する検討を継続的に行い、その成果を「ＢＩＭ概算ガイドブックＩ」として取りまとめ、建築ＢＩＭ推進会議にて報告した。

さらに、国連全加盟国が推進する「ＳＤＧｓ」への貢献を目指し、当協会としての実行計画を策定し、内外に発信するための準備を行った。同時に、ＬＣＡ（Life Cycle Assessment：環境影響評価）における評価手法についても、他団体との積極的な連携を視野に入れた研究を進めるための基礎調査を行った。

これらの取り組みを通じて、今年度は当協会が建築分野におけるＤＸを推進し、建設業界全体の生産性向上と持続可能な社会の実現に資するための様々な準備を行った。

会誌「建築と積算」は、創立５０周年記念大会に向けて、年間テーマを 「建築積算の役割拡大：ビジョンと革新」とし、特殊記事をさらに充実させ、会員ならびに資格者に取って魅力ある企画を進めた。

［３］評価評定および相談事業の推進

事例報告その７が１月に開催された。今年度は、支部からの独自事例報告が３件、本部からは「積算技術者がもう一歩進む」の講演を行った。

建築コストの諸問題に関して、評価評定・相談事業を推進することは、第三者性の高い公益社団法人としての社会的使命であり、また、資格者の活躍を社会へアピールするためにも有効であると位置づけているが、工事費の単なるコストの検証ではなく、価格変動額（物価スライド）の妥当性等のより複雑で多様なマネジメントを要求される依頼が増加している。このような難易度の高いコストマネジメントに対応できる人材の確保育成および運営組織については、継続課題としているが、事例発表会、委員会等を通して情報交換ならびに情報共有していき、各支部の受託環境の整備と必要な人材の育成について、引き続き検討をしていく。

［４］持続可能な財務基盤の構築

公益社団法人として最適なビジネスモデルを継続検討している。
建築積算士から建築コスト管理士へのステップアップを促進し、会員化による収支構造の平準化を目指している。

全支部に導入した予算管理システムにより、的確な予算設定と収支管理の実施が可能となり、収支バランスは改善傾向にあるが、平準化までには至っていない。来年度以降もさらなる収支改善への努力を続ける。

［５］協会のブランディング

当協会のブランディングは、単なるＰＲではなく、協会にとっての重要な相手（法人、個人）に協会の特徴を明確に示し、相手先の関心を高めると同時に信頼関係を築き、協会の良き理解者となってもらうための活動であり、当協会では「ペリカン大作戦」と名付けて、２０１１年度から本部・支部で企業・機関・団体への訪問を展開している。

今年度は、２０２５年の創立５０周年記念大会のスポンサーシップ・寄付金等のお願いも兼ねて、企業訪問等の再会をすすめることが出来た。

また、建築ＢＩＭ推進会議への参画、第三者評価評定事業、継続的なＰＣＭシリーズ出版などの活動を通じて、多面的にブランディングを展開できている。

［６］会員の増強

新規会員を獲得するために、入会キャンペーンを継続展開している。

学生会員制度の刷新により、学生会員は定着してきた。学生会員の建築積算士取得、卒業後の正会員につながる仕組みの検討を進めた。

積女ＡＳＳＡＬ委員会は、平日と休日併用のセミナーを開始し、対面での交流会を再開した。また、創立５０周年記念大会に向けて、積女ＡＳＳＡＬ記念冊子の企画を進めた。

３．２０２４年度事業計画項目と担当委員会

［１］事業計画委員会

（１）各支部へＷｅｂ講習会等のコンテンツ活用状況を確認し、本支部が保有するＷｅｂコンテンツの把握を行った。
当協会の保有するコンテンツの他分野への展開も視野にスマホアプリを利用したコンテンツビジネスの可能性を検討する。

（２）各支部のチャレンジ施策等を整理し、協会のブランディングに関する確認を行った。

（３）スマホアプリのプロトタイプを作成し、次年度からの運用に向けた技術的な各種準備を行った。

（４）情報セキュリティに関する基礎的整理を実施し、当協会に必要な施策の検討を行った。

［２］会員委員会

（１）入会キャンペーンの継続を実施した。

（２）学生会員制度の活用により、学生会員登録は定着してきた。卒業後の正会員化に向けて「けんせき」や書籍・講習会等で資格や協会活動のＰＲを行った。

（３）学生会員サービス向上のためインターンやリクルート情報を提供した。

（４）ＡＳＳＡＬと連携し、女性会員増強キャンペーンを継続的に推進した。

［３］広報委員会

（１）創立５０周年記念誌編纂の企画検討と執筆依頼・特集座談会を開催した。

（２）会誌「建築と積算」コンテンツのさらなるレベルアップを図った。

［４］人材育成委員会

（１）建築積算士（一次・二次）、建築コスト管理士の資格認定試験を実施した。

（２）本支部合同ＷＥＢ積算学校（４期目）を実施した。

（３）各支部で活発なオンライン講習会、アーカイブ動画再利用による講習会が開催され、講習会のバリエーションが広がってきた。

（４）本支部とも講習会の集金システムの検討ならびに取り組みが進んだ。

［５］教育委員会

（１）新規講座開設校の開拓実施と今後の課題検討を行った。

（２）講師への全国統一アンケートの実施と問題点の抽出と把握をした。

（３）認定校講師の現状と今後についての意見交換会を実施した。

（４）次年度事業計画を各支部事業計画立案前に展開した。

［６］ＰＣＭ委員会

（１）「新☆建築積算士ガイドブック」講習会の開催をした。

（２）「建築積算技術者のためのＬＣＡ入門連続講座」講習会を環境委員会と協働で開催した。

（３）「中大規模木造建築のコストマネジメント・ガイドブック」の改訂に向けて「木造建築小委員会」を発足した。

［７］情報委員会

（１）Uniclass 日本語検索システムのメンテナンスの継続を行った。

（２）ＢＩＭ概算ガイドブックＩの公開を行った。

（３）ＢＩＭを活用した積算・コストマネジメント環境整備協議会の開催をした。

（４）国土交通省建築ＢＩＭ推進会議への参画および同会議部会４としての情報発信および関連機関・団体との連携を図った。

［８］環境委員会

（１）「建築積算技術者のためのＬＣＡ入門連続講座」講習会をＰＣＭ委員会と協働開催した。

［９］国際委員会

（１）海外ＱＳ団体・企業との関係強化を通した調査研究と会員への情報発信し、相互資格認証を更新した。

（２）グローバル・ヤング基金を活用して、ＰＡＱＳ国際会議（ブルネイ）への参画をした。

（３）ＲＩＣＳとの連携促進（ＩＣＭＳの活用など）のためダイレクトエントリー協議した。

[10]評価評定委員会

（１）事例報告その７を開催（１月）した。
支部事例報告３件と本部「積算技術者がもう一歩進む」が報告された。

（２）本部・支部における人材育成と運営組織検討は、継続協議となった。

[11]積女「ＡＳＳＡＬ」委員会

（１）平日セミナーの開始をした。（１１月国土交通省出前講座を企画）

（２）ハイブリッド形式セミナーの開催をした。（１２月）

（３）ＰＡＱＳ国際会議（ブルネイ）へ新規積女枠による応募者の参加があった。

（４）大学への出前講座を実施した。（東京工芸大学・日本大学生産部）

（５）「積女ＡＳＳＡＬだより記念冊子」企画の立案を検討した。

【特別委員会】

［１］ペリカン推進委員会

（１）重点訪問対象先の方針とコミュニケーション内容を共有した。
（２）各種情報発信先の企業・機関等リストを継続的に更新した。
（３）人材育成体系の効果的活用を図った。
（４）対外広報との相乗的なブランディングの実施を図った。

［２］創立５０周年記念大会実行委員会

（１）大会プログラムの検討をした。
（２）スポンサーシップならびに寄付のお願いを実施した。
（３）公募によりロゴマークを決定（積女ＡＳＳＡＬ委員会との連携）した。
　　開催案内・スポンサーシップ・寄付金ならびにＰＡＱＳでの活用を図った。
（４）協会史編纂（広報委員会との連携）の検討を進めた。

４．建築コスト管理士審査・証明事業

［１］関係委員会活動報告

建築コスト管理士評議委員会	学識経験者などから構成する委員会は、2024 年度の試験合格者に関する事項、認定事業の事務に関する基本的事項について審議を行い、認定事業の厳正かつ公正な運営を図った。
試 験 委 員 会	試験委員会は、試験の出題方針の検討と筆記試験、問題の作成、校正並びに合格基準点(案)の作成、答案の採点などの活動をした。

［２］試験状況

実施日：：2024 年 10 月 27 日（日）
試験地：札幌、仙台、東京、名古屋、大阪、広島、福岡、鹿児島、沖縄（9 都市 9 会場）
実受験者数: 359 名、合格者数 146 名

［３］資格更新

規定の BSIJ・CPD 単位取得による更新対象者人数：297 名
更新予定者：207 名（登録証期限は 6 月 30 日）

表－1 建築コスト管理士支部別内訳　　（2025 年 4 月 1 日現在）単位：名

支　部	北海道	東北	関東	東海北陸	関西	中国四国	九州	合計
2025 年 4 月	64	95	998	151	300	122	169	1,899
2024 年 4 月	62	92	958	146	278	119	167	1,822
増減	+2	+3	+40	+5	+22	+3	+2	+77

５．建築積算士審査・証明事業

［１］関係委員会活動報告

建築積算士 評議委員会	学識経験者などから構成する委員会は、2024 年度の試験合格者及び更新講習修了者について、また認定事業の事務に関する基本的事項について審議を行い、認定事業の厳正かつ公正な運営を図った。
試 験 委 員 会	試験委員会は、建築積算士試験、建築積算士一次試験・二次試験の出題方針の検討と試験問題の作成並びに合格基準点（案）の作成に向け活動した。

［２］試験状況

実施日：（一次・学科）2024 年 10 月 27 日（日）
（二次・実技）2025 年 1 月 26 日（日）
試験地：札幌、仙台、東京、名古屋、金沢、大阪、岡山、広島、福岡、鹿児島、沖縄
（11 都市 13 会場）
受験者数および合格者数
一次（学科）試験／実受験者数：463 名、合格者数：300 名
二次（実技）試験／実受験者数：：968 名、合格者数：576 名

［３］資格更新

更新講習実施方法／e ラーニング、又はそれに代わる方法(DVD 視聴等)
更新講習受講期間／2024 年 7 月 1 日～11 月 30 日迄の約 5 ヶ月間
受 講 対 象 者 数：4,346 名 、受講申込者数：3,047 名
実受講修了者数：3,032 名（e ラーニング 2,331 名、DVD 視聴 688 名、ミニ会場 13 名）
更新登録者数： 3,431 名（建築コスト管理士を併せもつ更新者 399 人を加算）

表－2 建築積算士支部別内訳 （2025 年 4 月 1 日現在）単位：名

支　部	北海道	東北	関東	東海北陸	関西	中国四国	九州	海外	合計
2025 年 4 月	395	694	4,213	1,284	1,875	898	1,601	1	10,961
2024 年 4 月	394	702	4,064	1,278	1,867	927	1,657	0	10,889
増減	+1	−8	+149	+6	+8	−29	−56	+1	+72

※更新講習未受講につき、1 年間の資格停止者は上記の人数に含まれておりません。

６．建築積算士補審査・証明事業

［１］関係委員会活動報告

建築積算士補 評議委員会	認定校に関する事項、試験合格者に関する事項、その他認定事業の事務に関する基本的な事項について審議を行い、認定事業の厳正かつ公正な運営を図った。（15 回開催）

［２］試験状況

試験実施校数：51 校　　受験者数：2,170 名　　合格者数：1,698 名

［３］資格更新

※2018 年度より資格登録有効期間が 3 年間から 10 年間に変更され、当年度は更新なし。

表－3 建築積算士補支部別内訳　　（2025 年 4 月 1 日現在）単位：名

支　部	北海道	東北	関東	東海北陸	関西	中国四国	九州	合計
2025 年 4 月	651	559	4,713	1,933	1,784	1,585	1,830	13,055
2024 年 4 月	602	437	4,287	1,836	1,606	1,399	1,688	11,855
増減	+49	+122	+426	+97	+178	+186	+142	+1,200